

(6) 2016年(平成28年) 3月31日(木曜日)

「来世があるかないか分からない。だから、そんな推測に時間を使うより、今この世で幸せに生きることが大切だ」と思う人は多い。もし、来世についての教えや、考えが、根拠のない伝承や、神話や、教義によるものであるならば、その通りであろう。不思議な臨死体験をして生還し、確信をもって「天国を体験して戻ってきた」と証言し、本を書いた人は少なくない。だが、それだけを信じて、自分の未来、永遠を託す人はそう多くはないであろう。

「来世があるかないか分からない。だから、そんな推測に時間を使うより、今この世で幸せに生きることが大切だ」と思う人は多い。もし、来世についての教えや、考えが、根拠のない伝承や、神話や、教義によるものであるならば、その通りであろう。不思議な臨死体験をして生還し、確信をもって「天国を体験して戻ってきた」と証言し、本を書いた人は少なくない。だが、それだけを信じて、自分の未来、永遠を託す人はそう多くはないであろう。

「来世があるかないか分からない。だから、そんな推測に時間を使うより、今この世で幸せに生きることが大切だ」と思う人は多い。もし、来世についての教えや、考えが、根拠のない伝承や、神話や、教義によるものであるならば、その通りであろう。不思議な臨死体験をして生還し、確信をもって「天国を体験して戻ってきた」と証言し、本を書いた人は少なくない。だが、それだけを信じて、自分の未来、永遠を託す人はそう多くはないであろう。

「来世があるかないか分からない。だから、そんな推測に時間を使うより、今この世で幸せに生きることが大切だ」と思う人は多い。もし、来世についての教えや、考えが、根拠のない伝承や、神話や、教義によるものであるならば、その通りであろう。不思議な臨死体験をして生還し、確信をもって「天国を体験して戻ってきた」と証言し、本を書いた人は少なくない。だが、それだけを信じて、自分の未来、永遠を託す人はそう多くはないであろう。

「来世があるかないか分からない。だから、そんな推測に時間を使うより、今この世で幸せに生きることが大切だ」と思う人は多い。もし、来世についての教えや、考えが、根拠のない伝承や、神話や、教義によるものであるならば、その通りであろう。不思議な臨死体験をして生還し、確信をもって「天国を体験して戻ってきた」と証言し、本を書いた人は少なくない。だが、それだけを信じて、自分の未来、永遠を託す人はそう多くはないであろう。

### 南加キリスト教教会連合

## 人間は「死んだら終わり」か？

### 来世(生)の確証

相原雄二

世界のキリスト教会では、先週、イースター(復活節)を記念した。世界にはいろいろの宗教があるが、その開祖自身が「復活した」ということを信仰の土台としている宗教は見当たらない。実に不思議なことである。

キリスト教は、ローマ帝国の支配下にあった中東の小さな国ユダヤで、西暦30年近くに始まり、過去2000年近く歴史を動かし、なお信仰者が増加している。クリスチャン

ら復活を信じる一人の信仰者として生き、宣教してきたのであるが、その根拠は、どこにあるのであろうか。①歴史的に存在し続けている聖書と教会。②その聖書が神話やおとぎ話

話ではなく、事実、歴史上に起こったことの真実な記録であることを証明する十分な証拠があること(これについては、無数の書物が出版されている)。

③イエス・キリストと呼ばれた人物がいたこと、そして確かに死刑にされたこと。このことを、学問的に、合理的に、説得力を持って否定できた人はいまだかつていない(試みた人はいたが)。そのイエス・キリストが確かに死んで埋葬され、足掛け3日目に復活し、その後40日間におたり、時を変え、場所を変え、次々と弟子たちに出会い、時には共に食事までしたと聖書は明言している。

「死んだら終わり」ではない。復活の事実によって証明され、信仰者の今に、確信と望みと生き甲斐を与えている。

「死んだら終わり」ではない。復活の事実によって証明され、信仰者の今に、確信と望みと生き甲斐を与えている。

「死んだら終わり」ではない。復活の事実によって証明され、信仰者の今に、確信と望みと生き甲斐を与えている。

「死んだら終わり」ではない。復活の事実によって証明され、信仰者の今に、確信と望みと生き甲斐を与えている。

「死んだら終わり」ではない。復活の事実によって証明され、信仰者の今に、確信と望みと生き甲斐を与えている。

(ミッシェル・ピエホ日本語教会牧師)